

〔視点1〕 育成を目指す資質・能力の明確化

1 単元（題材）を見通して、育成を目指す資質・能力を明確にし、評価規準を設定する。

育成を目指す資質・能力の整理・確認

学習する生徒の視点に立ち、単元（題材）全体を通して、「何ができるようになるのか」という観点から、育成すべき資質・能力を整理し、その具体的な姿を評価規準として設定することが大切です。

【POINT】

・「活動ありき」ではなく、授業のねらいを具体化した学習活動を位置付けるとともに、授業のねらいに照らした生徒の学習状況を基に「指導と評価の一体化」の観点から改善を図ることが大切です。

2 評価規準を踏まえた学習活動を、単元（題材）全体を通してバランスよく位置付ける。

学びの過程の構築

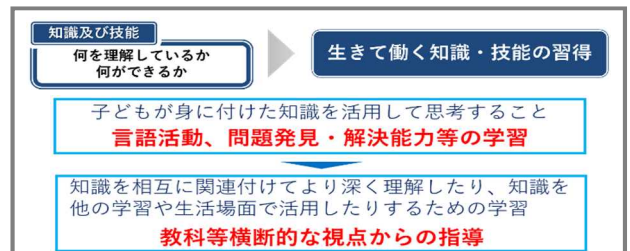
単元（題材）全体を通して、生徒に対してどのような資質・能力の育成を目指すのかを指導のねらいとし、学習活動を設定することが大切です。

【POINT】

・生徒が学びを積み重ねていく学びの過程を構築することができるよう、単元（題材）全体を通して、学習活動のバランスを考えることが大切です。

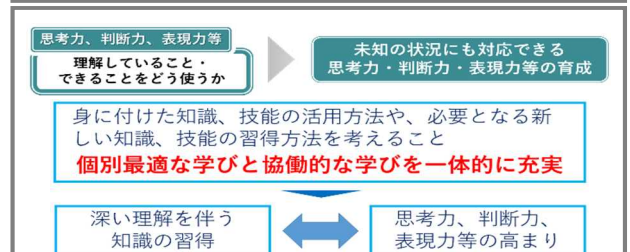
「知識・技能」の習得

生徒の学びへの興味を高め、学習に必要な個別の知識を確実に身に付けさせるとともに、身に付けた知識を活用して思考することにより、知識を相互に関連付けて深い理解につなげるよう工夫することが大切です。



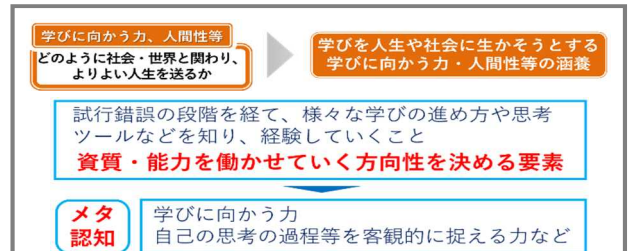
「思考力・判断力・表現力等」の育成

学びの過程において、身に付けた知識や技能を活用し、必要となる新しい知識や技能を習得するなど、思考力・判断力・表現力等を発揮することによって深い理解が伴う知識が習得されるよう工夫することが大切です。



「学びに向かう力、人間性等」の涵養

学びの過程や達成状況を評価して次につなげるなど、生徒が学習の進め方を自ら調整し、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を働かせていく方向性を決定することができるよう工夫することが大切です。



3 生徒の学習状況を評価規準に基づいて見取る。

指導と評価の一体化

学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができる一貫性のある評価を行うことが重要です。

その際、学習成果だけではなく、学びの過程を一層重視することが大切です。

【POINT】

・単元（題材）全体を通して、育成を目指す資質・能力のバランスのとれた学習評価を行うためには、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていく必要があります。